

2019 Autumn Special Exhibition Venue Exhibition room1, 2 (1F, 2F)

Shin-hanga – New prints after Ukiyo-e

-with a focus on Hasui•Koson•Shinsui-

Exhibition dates Period 1: September 27th (Fri) – October 27th (Sun) / Period 2: October 31st (Thu) – December 8th (Sun)

会期 2019年 **9.27(金) – 12.8(日)** 【前期】9.27(金) – 10.27(日) 【後期】10.31(木) – 12.8(日)

回覧料 大人/820円(660円) ()内は20名以上の団体料金
▲18歳以下無料、障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。

回開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

回場 所 展示室1、2(1、2F)

回休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く) ※10.28(月)～30(水)は展示替え、10.15(火)、23(水)、11.5(火)は祝翌日のため休館いたします。▲10.14(月・祝)、11.4(月・祝)は開館いたします。

関連イベント ※無料(ただし、観覧料が必要です)

回学芸員による作品ガイド

日時:【前期】10.6(日)【後期】11.3(日) 各日午前10時30分～(30分程度) 場所:展示室1、2(1、2F)

回呈茶会 美術館ボランティア香風会(鎌田幸子代表)

日時:未定 詳しくは美術館までお問い合わせください。

新版画とは、大正初期から昭和にかけて描かれた木版画を指します。江戸時代の浮世絵と同じように、版元を置き、絵師、彫師、摺師による分業によって制作されていました。しかし、明治期には彫りや摺りの技術は最高潮に達しており、そのような状況下で作られた新版画は、江戸時代の浮世絵と異なる新たな芸術性を獲得しました。新版画を生み出し、発展させたのが、美術商で浮世絵の輸出に携わっていた渡邊庄三郎(1885-1962)という人物です。

明治中期頃から、浮世絵の生命は脅かされていきます。これは速報性のある新聞や物事をリアルに写す写真の登場によるものでした。江戸時代、マスメディアとしての役割も担っていた浮世絵は、情報を伝えるという面では新聞や写真に太刀打ちできなくなっていきます。加えて、当時は西洋文化への賛美や江戸文化への蔑視もあり、浮世絵の衰退は著しいものでした。この状況を案じた庄三郎は、同時代作家の下絵を彫師と摺師の手を経て、純粋な絵画として木版画を完成させるという新事業に乗り出しました。これが新版画の始まりです。そして川瀬巴水や伊東深水などの画家が登場し、大いに活躍しました。

新版画の特徴の一つとして、色彩の豊かさを挙げてみましょう。江戸時代の浮世絵は10～20色ほどの色を摺り重ねていたのに対し、新版画では30色を超えることも珍しくありません。明治30年(1897)頃の水彩画ブームも相まって、新版画—特に風景画—には多く水彩顔料が用いられていました。摺りを何色も重ねることで、深みのある

作品に仕上がります。その美しさは筆舌に尽くしがたいものです。

写実的な表現や卓越した彫摺によって表された新版画は新しさもある一方、どこか懐かしさも感じさせます。浮世絵が近代に残した木版の伝統美をご覧ください。

Even ukiyo-e which was born in Edo period was gradually declined in the end of Meiji era, the traditional skills and techniques of artists, carvers, and printers were maintained as Shin-hanga. New woodblock prints called Shin-hanga make us feel freshness and also nostalgia. In addition, we can find the similarities of how Hiroshige captured the compositions. This exhibition shows you the beauty of woodblock prints that ukiyo-e left to posterity.

【主な出品予定作品】

渡邊木版美術画舗所蔵作品

川瀬巴水「旅みやげ 第1集 若狭 九天子湖」

小原古邨(祥邨)「金魚と猫」、「雪中の五位鷺」

伊東深水「新美人姿 涼み」、「現代美人集第二輯 洗い髪」

橋口五葉「化粧の女」、「湯場の女」

名取春仙「春仙似顔絵集 大河内傳次郎 丹下左膳」

高橋松亭(弘明)「白猫」、「都南八景の内 馬込」

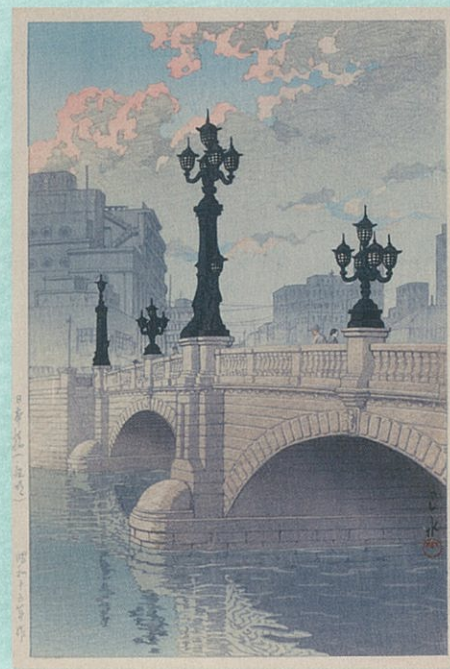
山村耕花「梨園の華 十三世守田勘弥のジャン・バルジャン」

笠松紫浪「うろこ雲」、「おぼろ月」

フリッツ・カペラリ「黒猫を抱く女」 など

【図版解説】

川瀬巴水「日本橋 夜明」



文化の中心地である東京は、江戸時代の浮世絵と変わらず、新版画でも人気のモチーフでした。しかし、『東海道五拾三次之内』のような、浮世絵に描かれたにぎやかな日本橋とは異なり、静けさに包まれる本図は純粋な風景画といえます。ゆらめく川の水面には日本橋や街灯が映し出され、空に浮かぶ雲は朝日の光を浴びてほんのりと茜色に染まります。画面全体を鮮やかに透明感のある青の濃淡で摺ることで、美しい朝ぼらけの様子を表しているようです。

かつて東海道や中山道の起点であった日本橋は、巴水によって写真のようなみずみずしいリアリティを持ちながらも、叙情的に描き出されました。

中山道広重美術館所蔵作品

川瀬巴水「今井橋の夕立」、「木曾川(犬山)」、「木曾川蓬萊岩」、「飛騨中山七里」

吉田 博「木曾川」

土屋光逸「弁慶橋」

歌川広重「近江八景 唐崎夜雨」、「近江八景 比良暮雪」

など

【出品作家紹介】

川瀬巴水(1883-1957)



東京生まれ。27歳のとき錦木清方に入門し巴水の号を受ける。同門の深水に影響を受け新版画に参画。渡邊庄三郎とともに縦長構図のユニークな《塩原三部作》を完成させる。以来旅に出るは写生をし、それをもとに作品を制作した。生涯に600点を超える美しい作品を残し、新版画を代表する作家となった。風景画を得意とし、海外での人気も高い。

小原古邨(祥邨)(1877-1945)



石川県金沢市生まれ。鈴木華邨に師事し花鳥画を描くが、明治末期、木版画による花鳥画を数多く制作した。49歳の頃から渡邊庄三郎のもとで「祥邨」の画号で新版画制作をはじめ、生涯に500点以上の花鳥画を制作した。それらは主に海外向けに販売され、評判を集めた。

伊東深水(1898-1972)



東京生まれ。10歳のときから印刷会社で働きながら日本画修行をはじめ。13歳で錦木清方に入門し深水の号を受ける。早くから才能を開花させ、清方門下の郷土会の出品作品によって渡邊庄三郎の知るところとなり、新版画の最初期から活躍した。妖艶な美人画は現在でも人気が高いが、風景画でも優れた作品を残している。

橋口五葉(1881-1921)

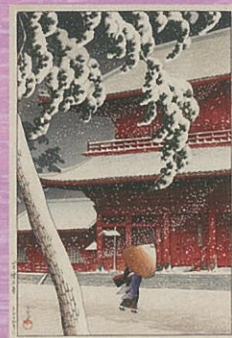
鹿児島県鹿児島市生まれ。早くから狩野派、四条派の絵師に就くが、18歳で上京し白馬会洋画研究所に入所。油絵を学びながら図案も手掛け、名声を得る。大正3年(1914)頃から浮世絵研究をはじめ、渡邊庄三郎から新版画制作へと誘われた。版画のために多くの画稿を残しながら、39歳で夭逝した。

名取春仙(1886-1960)

山梨県中巨摩郡明穂村生まれ。明治37年(1904)東京美術学校日本画撰科に入学、数多くの展覧会に出品、挿画なども手掛ける。大正5年(1916)に「劇画展覧会」に出品していた肉筆画が渡邊庄三郎の眼に留まり、渡邊版画店から役者絵を版行。新版画で役者大首絵を描いた代表的存在であった。

高橋弘明(松亭)(1871-1945)

東京生まれ。伯父である松本楓湖について9歳頃から日本画を学び、松亭を号とする。明治30年代の末に浮世絵複製に絵師として関わったことから新版画の下絵を手掛ける。これが軽井沢の外国人観光客に売れ、関東大震災後の渡邊版画店の復興や、新版画の前史形成に貢献した。大正10年(1921)に「弘明」と改め、新版画を制作した。



左から 橋口五葉「髪梳く女」、名取春仙「春仙似顔絵集 初世中村吉右衛門 馬盟の光秀」、川瀬巴水「東京十二景 芝増上寺」、伊東深水「現代美人集第二輯 吹雪」、小原古邨(祥邨)「かきつばた」、川瀬巴水「旅みやげ第三集 木曾川蓬萊岩」、吉田 博「木曾川」

2019 秋季特別企画展
主催 恵那市 恵那市教育委員会(公財) 中山道広重美術館
後援 国際浮世絵学会(予定) 協力 渡邊木版美術画舗 企画協力 ステップ・イースト

「巴水・古邨・深水を中心に」
新版画展
「浮世絵版画のその後」

浮世絵の技を受け継ぎ、さらなる美を探索した
多色摺木版画の結晶。